ティー・ブレイク

NO. 76

成功の秘訣

共同事務所というのは，一般には，うまく行かないものだと言われている。跡取りもそうである。

共同事務所がうまく行かないのは，それは「助けて欲しい」と思っている者どうしが集まるからである。これについては，キャッチャーが二人集まったところで良いバッテリーを組むことはできない，ということと同じである。

であるから，「助けて欲しい」と思っている者が，人を助けることを生き甲斐のように思っている人と組めば，共同経営もうまく行くと思うのであるが，そんなイエス＝キリストのような人物がそうそこらに転がっているわけではないので，うまく行かないケースのほうが散見される結果となる。

跡取りも，これもうまく行かない。それは，「跡取りを探そう」などと思う人は，それは要するに，そう人に言われ，或いは自発的にそう思ったとしても，その時点まで一人でやってきたからである。長い間一人でやってきた人が，いきなり共同生活に馴染むことなどできるわけがない。最初のうちは我慢していても，いずれは，しかもそう遅くないうちに，破綻が訪れる。

そもそも，ある程度の度量をもって下の人間を扱うことができるのであれば，ずっと一人でやって行くというようなことは無いはずなのであるから，ある日突然に「跡取りを探そう」などと思ったり，その必要に迫られるような人は，既にその時点で，跡取りを探せる適格に欠けるということになるのかもしれない。

「じゃあ」というわけで，「世の中厳しそうだし，特に昨今は不況で世間の風も物凄く冷たい，ということを考えると，一人でやるというのは非現実的のように思えるから，共同も跡取りもダメということになると，やはりこのまま今の職場で勤め上げるのが最良の策か。そのうちチャンスも訪れるだろう」と思うのであるが，成功する人というのは，そんな中でも，後先考えずに果敢に独立する。或いは，上記のような指摘にもめげずに，共同経営なり，跡取りなりをやってみる。

失敗しそうだから「やらない」のではない。「失敗するかもしれない」と思っても，「自分ならもしかしたらできるかもしれない」と思って，果敢に挑戦するのである。それでもやってみるのである。

そして，実際にやってみて，失敗をする。たとえ志は高くても，志を持った者それ自体は，特に超人というわけではなく，ごく一般的な普通の人間に他ならないからである。世の中，それほど都合良くできているわけではない。多くの人がやってダメであったことが，後からやった普通人にできるはずがない。

しかしながら，問題はここからである。彼は，失敗したことから，多くのことを学ぶのである。もし失敗しなかったであろうならば学べなかったこと，特に，うまく行っているときには学べないもの，失敗したときにしか学べないものを，得るのである。

そうして，逆境こそが自分の糧となることと，何につけても，「失敗」というものが成功に至るまでの重要なステップであるという貴重な教訓を，そこから学ぶのである。　（正）